

どこまでも広がる世界

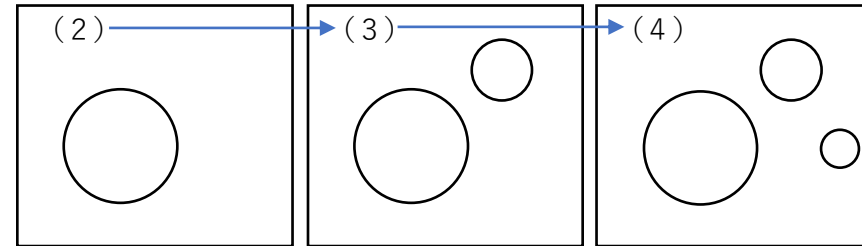
保護者用

～おくゆきのある表現にちょうせんしよう～

高学年の図画工作では、表現活動や鑑賞活動を通して、動きや奥行き、バランス、色の鮮やかさなど理解することも目指しています。今回は「奥行き」にスポットを当てています。ただし、奥行きの表現＝遠近法を教えるということではありません（遠近法は中学校の指導事項です）。今回は紙面上での指導になるため、少し無理があるかもしれませんが、学校では黒板や画像、友だちの作品を見ながら、または造形遊びなどを通して児童ができるだけ主体的に様々な造形的な特徴を理解できるように指導しています。この家庭学習でもお子さんの試行錯誤を見守ってください。そして自分なりの発想や構想を練りながら表現しようとしている姿を励ましていただければと思います。

1. 「おくゆき」の表現を練習しよう。

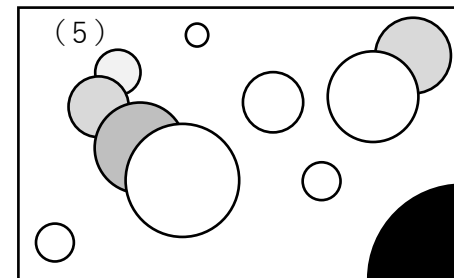
子どもたちは、説明文を読みながら取り組みますが、指導側のイメージは以下の通りです。



【質問①】 → 大きい○が前にあるように見えます。

【質問②】 → 一番小さいの○が一番奥にあるように見えます。

(5) で○を増やしていきます。その時、ただ○を増やすだけでなく右図のように重なりや、濃淡をつければ主体的な学びがあったと評価できます。



2. どこまでも広がる世界を表現しよう。

ワークシートにうつります。オリジナルキャラクターをつくらしたらアイデアスケッチの枠にかきます。練習では、○で奥行きの表現に挑戦しましたが、この○がオリジナルキャラクターにかわるというイメージです。最後の作品は、青い枠の中にえがきます。児童からよく「オリジナルキャラクター以外をかいてもいいですか」と質問されますが、もちろんOKです。どんどん自分のイメージに近づけてほしいと思います。お子さんが少しでも楽しみながら自分だけの世界を表現できるように、温かく見守ってください。

3. 作品の紹介をしましょう。

大切なことは絵の上手い下手ではなく、お子さんがこの活動で何を考え、どう取り組んだか...です。そのことについて「なるほど!」「それいいね!」などと共感していただければと思います。

用意するもの (お子さんが用意できたかご確認をお願いします)

- 鉛筆・消しゴム
- 色鉛筆 など
- 練習用の紙 (昨年度のノートのみでよい)
- ワークシート

【注意】 練習用の紙は、昨年度のノートで余っているページがあれば、それでもかまいませんし、自由帳でもよいです。紙(ノート)の向きは、たてでも横でもどちらでもよいです。